29pmG-054

患者担当制を導入した参加型臨床実習のアウトカム評価と学生の達成度

○向後　麻里[1], 小林　文[1], 小島　章嗣[1], 村山　純一郎[1,2], 山元　俊憲[1],
木内　祐二[1], 加藤　裕久[1]（[1]昭和大薬, [2]昭和大病院薬）

【目的】本学では、病棟実習において「患者に始まり患者に終わる」を目標に掲げ、各学生がひとりの患者を担当し（患者担当制）、責任を持って患者の薬物治療の効果や副作用をモニタリングし、積極的に薬物治療に参画している。本年度は、病棟実習がさらに効果的な実習となるよう、薬物治療への関わり、患者とのコミュニケーション、チーム医療への関わり、プロフェッショナリズム、プレゼンテーションスキルなどのアウトカムを設定し、様々な取り組みを行った。その具体的な取り組みと達成度について報告する。【方法】新規取り組みとして、①症例検討会、②病棟ミーティング、③重点を置いた SBOs の実践と各々の評価を導入した。学生は、症例検討会において必ず 1 回担当患者の報告を行うとともに実務家教員より評価を受けた。実習終了後は担当患者の薬物治療について考察を加え、報告書を提出した。また、担当教員と合計 6 回のミーティングを行い、評価を受けた。そのうち、2 回は指導薬剤師も含めて病院内でミーティングを行った。さらに、コアカリキュラムの SBOs の中から本実習のアウトカムに対応する SBO s を選択し、重点的に実習するとともに指導薬剤師より評価を受けた。【結果・考察】症例検討会の評価点は、平均 3.9 点（5 段階）、病棟ミーティングの評価点は、平均 3.9 点（5 段階）、重点を置いた SBOs の評価点は、平均 3.5 点（4 段階）と高い評価点を示した．特に、患者とのコミュニケーションやプレゼンテーションスキルにおいては高い評価点を示したが、薬物治療やチーム医療への関わりにおいては事前学習の強化が必要と思われた。アウトカムを意識した様々な取り組みをすることでより一層、薬物治療やチーム医療への関わり、患者とのコミュニケーションが向上すると考えられた。